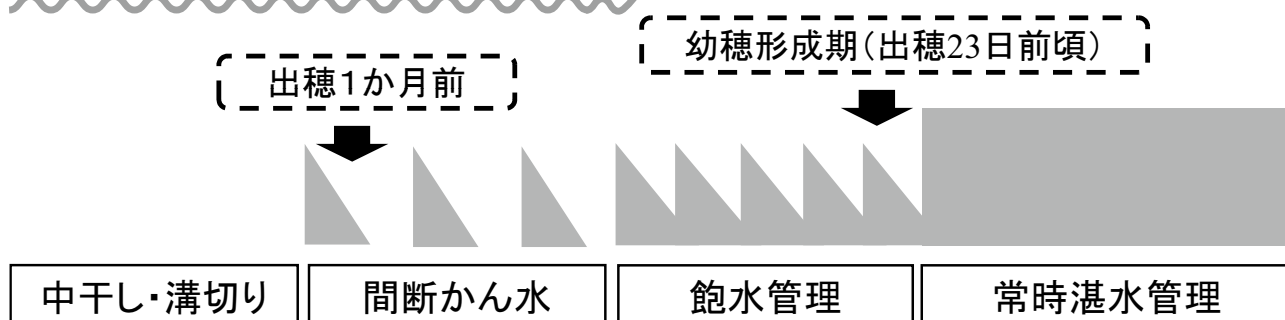


中干し後の水管理のイメージ



間断かん水：入水と自然落水を数日間隔で繰り返す

飽水管 理：水尻は止水し、自然減水で田面の水がなくなり、溝や足跡の底に水が溜まっている箇所が見られる状態になったら、かん水する

常時湛水管理：水が減ってきたらかん水（高温時には水の更新や深水管理）し、湛水状態を保つ



基本 水管理

出穂1ヶ月前中干し終了→間断かん水→飽水管理→常時湛水



水の入れ替えを

水もちが良く減水が少ない水田や水温が上がっている場合は水の入れ替えを行いましょう。水温を下げるには夕方に落水をし、朝に水を入水する事が有効です。



高温時には

フェーン現象等で急激な高温が予想される場合は、予め灌水し稲体の水分蒸散を防ぎましょう。台風時には、葉からの蒸散による脱水症状や強風による稲の傷みを防止するため深水にしましょう。



用水が不足する場合には

用水が不足し、緊急時に深水管理ができない場合でも出穂期以降は極力土壌の湿潤状態を保つよう心掛けてください。

7月は各地区ごとに穂肥・水管理・カメムシ等に関する【あぜ道指導会】を開催します

本年度の田植え以降、各地区の稲作指導担当者が実施している生育調査結果と今後の天候を加味した肥培管理の指導会が開催されます。

開催日等は回覧及び新聞折込みチラシ等でお知らせ致しますので積極的に参加をお願い致します。

7月はあぜ道日誌1回目(青色)の提出時期です。必ず忘れずに提出をお願い致します。